

Y7 Germany 2022
Y20 Indonesia 2022
報告書



G7/G20 Youth Japan



目次

G7/G20 Youth Japan

| | |
|--------------------------|-----------|
| G7/G20 Youth Summits の歩み | ・ ・ ・ p.5 |
|--------------------------|-----------|

Y7 Germany 2022

| | |
|----|-----------|
| 概要 | ・ ・ ・ p.8 |
|----|-----------|

| | |
|-------|-----------|
| 日本代表団 | ・ ・ ・ p.9 |
|-------|-----------|

| | |
|---------|------------|
| Y7 活動報告 | ・ ・ ・ p.10 |
|---------|------------|

- ・ サミット前の活動
- ・ サミット中の活動
- ・ サミット後の活動

| | |
|------|------------|
| 個人所感 | ・ ・ ・ p.20 |
|------|------------|

- ・ 代表団長 藤井隼生
- ・ 代表 沖山七海
- ・ 代表 近藤英里奈
- ・ 代表 サークー壽梨

Y20 Indonesia 2022

| | |
|--------------|------------|
| 概要 | ・ ・ ・ p.29 |
| 日本代表団 | ・ ・ ・ p.30 |
| Y20 活動報告 | ・ ・ ・ p.31 |
| ・ 事前活動 | |
| ・ サミット中の活動 | |
| ・ サミット後の活動 | |
| 個人所感 | ・ ・ ・ p.39 |
| ・ 代表団長 浅野和花奈 | |
| ・ 代表 中野裕美子 | |
| ・ 代表 土井崇和 | |
| ・ 代表 佐川弘晃 | |

Y7/Y20 2022 報告会

・ ・ ・ p.43

Conclusion

| | |
|-----------|------------|
| 今後の活動について | ・ ・ ・ p.46 |
|-----------|------------|

協賛

【添付資料】

Communique - Y7 Germany 2022
Communique - Y20 Indonesia 2022

G7/G20 Youth Summits の歩み

G7 & G20ユースサミット（Y7 & Y20）とは、G7 & G20首脳会談に、年に一度開催される18-30歳のユースによる国際会議である。実際的首脳会談と同様、協議された成果はコミュニケ（共同声明文）としてまとめられ、G7 及び G20の政策決定過程にユースの視点を反映する上で重要な役割を果たしてきた。

2006年4月にロシア・サンクトペテルブルクで開催された第1回大会では、G8各国からの代表団、欧州連合（EU）代表、そして国際連合代表のユースが参加した。2007年第2回大会はドイツ・ベルリンで開催。さらに2008年3月には、日本が議長国として第3回大会を開催し、G8各国と招待国（ブラジル、中国）の代表団が横浜に集まり、議論を行った。その様子は日本でもメディアに広く取り上げられた。

2009年にイタリア・ミラノで開催された第4回大会には、アウトリーチ5カ国（ブラジル、中国、インド、メキシコ、南アフリカ）からの代表団も議論に参加した。

2010年、更なる国際経済協力の必要性が声高に叫ばれる中、ユースレベルでもG20諸国の参画を取り入れ、カナダ・バンクーバーにて第5回大会が開催された。

2011年に行われたパリ大会では、各大臣会合のうち5会合を初めてG20の枠組みで行い、新興国を始めとする新たな参加者が迎えられた。

翌2012年はアメリカとメキシコの協力のもと、米国ワシントンD.C.にて大会が行われた。この会合では、新たにG8での法務大臣会合が実施されたほか、国際機関の代表も招かれた。



2016年4月30日 Y7 Summit Japan 2016 代表団集合写真

2013年には、イギリス・ロンドンにてG8ユースサミット、ロシア・サンクトペテルブルクにてG20ユースサミットが「Y20」として開催された。このサンクトペテルブルク大会からY20はG20首脳会談の公式エンゲージメント・グループ（※）となった。

2014年には、ロシア・モスクワで開催予定であったY8がG8首脳会談の中止に伴い開催無期限延期となってしまったが、オーストラリア・シドニーにてY20が開催された。

2015年度は、ドイツ・ベルリンで開催予定であったY7サミットが主催国ドイツの決定で中止となり、Y20サミットのみがトルコ・イスタンブールにて開催された。

2016年にはY7が日本で開催された。弊団体G7/G20 Youth Japanは、例年の代表団選抜・育成に加え、Y7サミットの企画・運営を担った。また、Y20サミットは中国（北京・上海）で開催され、例年同様、代表団の派遣を行った。

2017年にはイタリアにてY7サミット、ドイツにてY20サミットが開催された。Y20サミットでは、メルケル首相との政策意見交換の場も設けられた。

2018年にはカナダにてY7サミット、アルゼンチンにてY20サミットが開催された。

2019年のY20サミットは、2016年のY7サミットに続き弊団体主催にて、東京で開催した。1000人超の若者を集めた公開イベントや、安倍総理への表敬訪問など、会期中は様々な行事が執り行われた

2020年には米国主催にてY7サミット、サウジアラビア主催にてY20サミットが開催された。2021年には、イギリス主催にてY7サミット、イタリア主催にてY20サミットが開催された。いずれも、COVID-19の影響により、オンラインで開催された。



2019年5月29日 安倍前総理表敬訪問時の集合写真（首相官邸にて）

（※）G20エンゲージメントグループ： G20への正式な政策提言を目的に、政治家や官僚以外の各セクターにより構成される。Y20（ユース）はそのグループの一角を占める。その他代表的なものに、B20（ビジネス）、L20（労働組合）、C20（市民社会）、T20（シンクタンク）、W20（女性）等がある。



Y7 Germany



概要



正式名称 : 2022 G7 Youth Summit

主催 : International Youth Service of the Federal Republic of Germany

(with support of the Federal Ministry for Family Affairs, Senior Citizens, Women and Youth (BMFSFJ) as well as the Federal Office of Family Affairs and Civil Society Functions (BAFzA)

期間 : 2022年5月16日(月)~20日(金)

開催地 : ベルリン、ドイツ

参加者 : 18歳から30代の学生、社会人、政府関係者等からなるG7メンバー国*1とオブザーバー国*2の代表団48名

*1カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、イギリス、アメリカ、欧州連合

*2インドネシア、セネガル、南アフリカ、ウクライナ

公式HP : <https://y7germany.org/>

概要 :

ドイツ主催の今年度のY7サミットは、G7加盟国及び欧州連合に加え、インドネシア、セネガル、南アフリカ、ウクライナからも代表団が選出されオブザーバーとして会議に参加した。「サステナブルな環境の構築」、「共同成長のための経済変革」、「強靱な民主主義」、「健康と連帯」の4分野に、世界情勢を踏まえ「Youth Peace and Security (若者の平和と安全)」が5つ目の補完的テーマとして加えられ、議論を交わした。最終的に当サミットで作成されたコミュニケはオラフ・ショルツ首相に手渡された。



日本代表団



Y7日本代表団写真：右より、近藤、沖山、サーカー、藤井)

| 氏名 | 役職 | 所属 (2022年5月時点) |
|---------|---|-------------------|
| 藤井 隼生 | 代表団長 – Economic Transformation | ハーバード・ビジネス・スクール |
| 沖山 七海 | 代表 – Sustainable & Green Planet | 野村證券 |
| 近藤 英里奈 | 代表 – Resilience of Democracy | 早稲田大学 国際教養学部 |
| サーカー 壽梨 | 代表 – Global Health & Solidarity Youth, Peace & Security | TikTok Japan |



Y7 活動報告 (事前アンケート)

Y7/Y20 サミットへ向けた若者の意識調査 (Y20 2022日本代表団との共同実施)

実施期間：2022年3月31日～4月14日

対象者：日本の若者（18歳～39歳）

形式：オンラインアンケート

Y7に向けた政策提言をしていくにあたり、代表団として全国の日本の若者の意見や課題認識などを理解する必要があると考え、設定された4＋1トラックの内容もふまえて意識調査を行った。約二週間の回答期間を設けた結果、190名もの方々に回答を頂くことができた。

これらの回答を集計・分析をし、各テーマごとに重要論点などを整理することで、コミュニケ（政策提言）に活かした。以下集計結果の概要となる。

回答者属性：回答者190名（男女比1：1）



Y7 活動報告 (事前アンケート)

Y7/Y20 サミットへ向けた若者の意識調査 (Y20 2022日本代表団との共同実施)

アンケート結果概要

全般テーマ：

- 約58%の若者が、社会の中で課題と感じたことに関して話し合うことのできる場がないと感じている人が多いことがわかった

環境：

- 温室効果ガス排出による気候変動問題やその解決のカギとなる再生可能エネルギーに対する関心がとても高い
- 値段の高騰等による電力供給の不安定化や国家間での気候変動対策の非整合を懸念する声が多く、G7/G20リーダーによる多国間パートナーシップの確立や石炭火力発電の利用停止に関する具体的な目標の導入を求める声が多かった

格差：

- 経済活動の中でも子供の貧困を最重要な課題として認識している人が多く、若年層の教育・就職を日本で最も緊急性のある問題と認識していることが分かった
- G7G20各国における教育・スキルへの投資を求める声が高いことが分かった

民主主義と政治参加：

- 政治への関心度の低さを民主主義における一番の課題ととらえる人が多く、政策立案プロセスや政策実行結果の不透明性が原因だと考えている人が多い
- 約90%の若者が、自分たちの意見と声が政治家による政策策定に反映されていないと感じている

健康：

- 健康関連分野においてメンタルヘルスを最重要課題として認識している若者が多く、日本におけるメンタルヘルス教育を小学校入学前に始まるべきだと考えている若者が6割以上いることが分かった

その他：

- そのほか世代間格差や学校教育システム、安全保障、性教育といったことに課題感を持っている人がいることが分かった



Y7 活動報告 (広報活動)

Y7/Y20 サミットへ向けた広報活動

実施期間：2022年3月～5月

対象者：G7/G20 Youth Japan SNSフォロワーなど

形式：Instagram, Facebook, Twitter, LinkedIn

Y72022での日本代表団の活動を意義のあるものにするために、SNSなどを通じて活動の広報活動を行った。Y7活動への理解の醸成、日本の若者の皆様の意見を聞き入れる上でのイベントなどに対する参加率の向上、2022年Y7サミット並びに将来に向けた類似する活動への支援者及び参加者の増加などを目的とし、様々な内容を発信した。

以下、時間軸別の発信内容概要

○3月

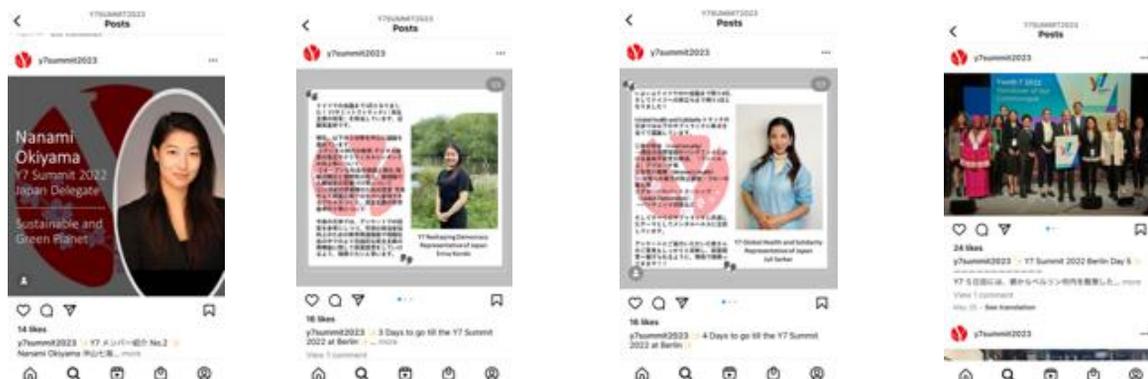
- Y20と共同でオンラインアンケートへのご協力依頼

○4月

- 各チームメンバーの自己紹介

○5月

- 「日本代表団 x 若者」意見交換オンラインミーティング参加募集
- オンラインアンケートの結果サマリーの共有
- 「日本代表団 x 若者」意見交換オンラインミーティング開催報告
- Y7本番を控えた各チームメンバーによる意気込み紹介
- Y7本番における現地day by dayレポート
- Y7終了に伴う謝意及びメッセージ



Y7広報活動一例：Instagram発信による自己紹介や意気込み、現地活動報告

Y7 活動報告 (事前イベント)

Y7/Y20 サミット日本代表団×日本の若者 オンラインディスカッションイベント (5月7日、8日)

実施期間：2022年5月7日、8日
対象者：日本の若者（18歳～39歳）
形式：オンライン

若者の意識調査アンケートにより集約した課題や懸念事項、各トラックテーマにおける重要論点などについて更に理解を深め、政策に盛り込むべく、Y20日本代表団と連携の上、二日間のオンライン会議を行った。
オンライン会議では代表団と日本の若者が小人数グループに分かれ、Y7及びY20にて取り扱われる全テーマについてディスカッションを実施。各トラック担当者が自身の担当するテーマにおける議論の経過などを共有した上で、それに対する意見を交換した。

全国より、約50名ほどの日本の若者にご参加いただき、充実した意見交換の場となった。



2022.5.7

@g7g20youthjapan



2022.5.8

日本のユースとオンラインディスカッションの様子



Y7 活動報告 (事前イベント)

2カ国間協議 (4月~5月)

実施期間 : 2022年4月~5月
対象者 : Y7他参加国の代表団
形式 : オンライン

現地での対面合流前にY7参加各国の重要論点を理解し、連携を深めることを目的に、オンラインにて2カ国間協議を行った。各国代表団も国をまたがって活躍しているため、時差や予定をふまえた調整は難航したが、カナダ及びイタリアとの協議が実現した。また、フランスについては団長同士の協議を行い、両国間の理解を深めた。



Y7 活動報告 (サミット期間)

コミュニケ完成に向けた交渉・議論 (Working Sessions)

Y7 Germany 2022 のフォーカステーマである4つのトラック「経済・環境・民主主義・健康」それぞれに分かれて議論・交渉、文言を含めた政策提言の完成に向けてブラッシュアップを行った。また、今年の世界情勢を踏まえて、5つ目のトラックとして「若者の平和と安全」に関する政策提言も組み込まれた。

初日から日付を超えてまで議論が行われ、4日目の最後には Y7 コミュニケの最終投票が行われ、限られた時間を最大限に使った修正の結果、オブザーバーとして参加した国を含めて、全てのトラックの政策提言について全参加国のコンセンサスが得られた。

オラフ・ショルツ首相へのコミュニケ提出

最終日にはオラフ・ショルツ首相が Y7 Youth Summit 開催会場に訪れ、ホスト国ドイツの共同議長よりコミュニケが直接提出された。首相との質疑応答の時間では若者の政治参加の必要性とその可能性に関して首相の見解を聞いた上で、各トラック代表者による質疑応答の時間が設けられた。



ショルツ首相への政策提言提出 (G7公式インスタグラムより)

Y7 活動報告 (サミット期間)

パネルディスカッション

1日目には教育や男女同権政策、平和及び安全について有識者を集めたパネルディスカッションが行われた他、2日目にはドイツ連邦政府より、リザ・パウス家族・高齢者・女性・青少年大臣を迎え、ユース世代の国際的な参画について意見交換が行われた。また、4日目には「Y7としての戦略的アドボカシー」と

「Youth, Peace, and Security (YPS)」についてのワークショップが行われ、前者では Y7 コミュニケの内容をいかに各国の政府やメディア・ユースに向けて共有し、政策に反映させていくかが話し合われた。後者では、他のユース団体も交え、若者が平和のために活動する際の障壁やそれを乗り越えるための施策について議論した。

ドイツ連邦議会・ドイツ外務省の訪問

ドイツ連邦議会では、ドイツの各政党（社会民主党、緑の党、ドイツキリスト教民主同盟）の 6 人の国会議員と面会した。若手議員も多く、ドイツにおける若者の政治参加や若者の関心が高い環境問題に関する各議員の意見を聞いた。外務省訪問では、Y7 で話し合われてきた気候変動への対応や若者の政治参加について外交官との意見交換が行われた。また、ドイツのフェミニスト外交をはじめ、G7 の存在意義や今後期待されていること等について聞き、質疑応答が行われた。



リザ・パウス家族・高齢者・女性・青少年大臣と
日本代表団



ドイツ連邦議会の前にて各国代表



Y7 活動報告 (サミット後の活動)

エンゲージメント活動

本年のサミット終了後、日本代表団はポスト・サミット・アドボカシー活動の一環としてハイレベルでの2022年Y7サミットの活動報告を通じたエンゲージメントを行った。具体的には、下記3回のミーティングを設けた。

①坂口卓厚生労働審議官とのミーティング（5月24日）

アジェンダ：

- 2022年Y7サミットの概要及び教育・就労に係る議論の説明
- 日本代表団より、日本の若者のコンテキストと重要性の補足
- 2022年Y7サミットに向けた協力及び継続的なやり取りのお願い

②森まさこ内閣総理大臣補佐官（女性活躍推進担当）とのミーティング（6月13日）

アジェンダ：

- 当団体の概要・活動内容についての紹介
- 2022年Y7サミットの活動報告およびコミュニケの説明
- 質疑応答

③中谷元内閣総理大臣補佐官（国際人権問題担当）とのミーティング（6月21日）

- 当団体の概要・活動内容についての紹介
- 2022年Y7サミットの活動報告およびコミュニケの説明
- 質疑応答・人権問題に関するディスカッション



森まさこ内閣総理大臣補佐官



中谷元内閣総理大臣補佐官



Y7サミット コミュニケ概要 1/2

Track 1 「サステナブルな環境の構築」

G7加盟国とそのパートナー国は、脱炭素に向けた公正なエネルギーの移行を目的とした気候クラブを創設し、その過程で若者およびエネルギー移行の影響を最も受ける人々の声を効果的に反映しなければならない。気候クラブが定めるカーボンプライスの下限は、CBDR-RC原則に準拠し、高所得国ほど負担が多くなるように設計され、また、1.5度目標を達成するのに必要な水準となるべきである。気候クラブは、課税によって集まった資金を国際的なメカニズムを通じて社会への還元を行う制度であるインターナショナル・レベニューリサイクリング制を導入し、また同時にカーボンリーケージを避けるために多排出産業も対象とした関税の導入も行わなければならない。

Track 2 「共同成長のための経済変革」

G7加盟国とそのパートナー国は、職のデジタル及び環境移行に成功しなければならない。その実現に向けて、政府は教育・研究機関やリーディングカンパニー、スタートアップ、中小零細企業、社会的事業などとの間における強いパートナーシップを醸成、促進をし、有償労働の機会に対する若者のアクセスを幅広く確保するべきである。また、政府は公的及び民間セクターにおける意思決定者に向けて、科学的かつ世界的に認知された気候変動認証プログラムの導入を通じて、倫理的リーダーシップを推進するべきである。

Track 3 「強靱な民主主義」

G7加盟国とそのパートナー国は、政府と対等な関係にある独立した市民社会タスクフォースの組成を通じた緻密なコミュニケーションとエンゲージメントのためのツールの導入を行うことで、政策立案への市民の参加度合いをより高めることを目指すべきである。このタスクフォースは、地域の要望を正しく認識すること、政策立案への参加に障壁を抱えるすべての市民に積極的に関わることを、そして、多様な若者と周縁化されているコミュニティを代表することを目指すべきである。さらに政府は、市民によるデジタルおよびリアル空間における政治参加に向けてに資金を投入するとともに、包括的な政策立案プロセスの確保のために経済的な参加支援をするべきである。



Y7サミット コミュニケ概要 2/2

Track 4「健康と連帯」

G7 加盟国とそのパートナー国は、SDG3.4の通り、気候変動由来の不安や COVID-19などを含む、特定の危機により増大するメンタルヘルスに関する様々な課題に対処するため、支援サービスの提供を改善するべきである。このサービスは、教育機関や職場、地域社会などで横断的かつ普遍的で、アクセスしやすく、効果的で、手頃な価格で提供されるべきである。また、7歳からのメンタルヘルス教育の提供を原則とした国ごとの基準と、大学や雇用主を対象とした全国的なキャンペーンやトレーニングを組み合わせることで、構造的な原因に対処し、差別を防止するべきである。

Track 5「Youth Peace and Security（若者の平和と安全）」

G7 加盟国とそのパートナー国は、若者、平和と安全（YPS）アジェンダの実施において、模範を示すべきである。平和プロセスへの若者の参加や、若者組織との強力なパートナーシップ構築から、彼らの保護や意義ある（再）統合に至るまで、YPS の制度化のための具体的な行動が必要である。YPS の制度化のための具体的なアクションが必要である。また、ウクライナを含むあらゆる紛争や戦争に対応するため、若者への対応に焦点を当てることが重要である。



個人所感

代表団長 藤井隼生

Track 2 「共同成長のための経済変革」 (Economic Transformation for Shared Progress)



<議論所感>

気候変動への対応やサステナブルな経済への移行、経済格差の拡大や若者の教育といった継続的なテーマに加え、COVID-19の感染や活動の自粛などによる経済低迷、ウクライナ情勢の悪化の影響もあり、世界的な生活コストの上昇や移民/難民に係る課題などのテーマについても議論がなされた。

トラックの性質上、幅広い議題が検討され、また、様々な問題が複雑に絡み合う中、トラック2としては各国が最重要と考える議題を持ち寄る形で候補出しをし、その後で方向性と集中して議論をすべき事項を整理の上、最終的には下記の3テーマを最重要分野として選定、政策作成を進めた。

1. Economic Advancement through Education and Innovation
2. Towards a Sustainable and Equitable Economic Order
3. Responsible Markets and Fair Fiscal Policy

提言の実効性を持たせることを重要視し、「野心的でありながらも実行可能であること」、「目標を数値化して示すこと」、「ユースならではの視点を盛り込むこと」の三点をトラックとして徹底した。

各々の専門的な背景知識だけでなく、各国のユース世代に対するアンケート調査や、各種専門家による講義やディスカッションを設けたことで、トラックメンバーの知見を深めるとともに、より深く活発な議論をすることが出来た。また、地政学的な要因や資源へのアクセス、人口動態などの条件が異なることから、経済面における課題や関心事項が異なる部分が多々あったが、時間をかけて丁寧に議論を進めるとともに、Y7として共有すべき価値観や責任に立ち帰ることで、実効的な政策をまとめられたことは大きな意義があった。



個人所感

代表団長 藤井隼生

Track 2 「共同成長のための経済変革」 (Economic Transformation for Shared Progress)



<個人所感>

多様性のあるメンバーで心理的に安全な環境を徹底し、議論をできたことが成功の大きな要因であったと感じた。トラックチームの始動から政策提言までサポートをしてくれたトラックシェルパに感謝をするとともに、今後のYY7活動に活かしていきたいと感じた。

また、Y7の議論の全体の大きな流れに影響されることなく、日本代表団として各メンバーが日本の特質性や、そのような背景をふまえた課題感などをしっかりと共有・発信できたことは非常に意義深かったと思う。今回の経験を引き継ぐことで、YY7日本として組織力を高めるとともに、今後も日本のユース世代の声を国際的に発信していく力になりたい。



個人所感

代表 沖山 七海

Track 1 「サステナブルな環境の構築」 (Sustainability and Green Planet)



<議論所感>

本トラックは、G7加盟各国およびパートナー国から参加したユースが、議論する中でより優先的に取り組むべき課題として上がったテーマをボトムアップ的に選択し、中身の策定を行うという形でコミュニケの作成に取り組んだ。

今年のY7Track1では下記の3つを主なテーマとして扱った。

- 1.自然および生物多様性
- 2.気候変動緩和及び適応
- 3.サステナブルな社会の実現のためのグローバルなパートナーシップ

2022年初頭から続くロシアとウクライナの紛争によりこれまでの均衡状態が崩れ、あらゆる不確定さの中で今年のY7は開始した。私が担当した「サステナブルな環境の構築」のトラックでは、議論が開始した3月中旬ごろは欧州を中心としたエネルギーひっ迫の真っ只中で、化石燃料の利用廃止といったこれまでの脱炭素を推進する流れに対する考え方の根本が揺さぶられる状況が続く中、サステナビリティに関心のあるユース世代は、温室効果ガスを排出する化石燃料の利用にどのように向き合うかといったことは序盤の大きなテーマだった。G7加盟国の中でもエネルギー自給率が低い日本は、有事の環境の中でも石炭火力発電の利用に逆戻りをしないという協力体制を取る一方で、そのような施策を取ることに伴うしわ寄せが低所得層をはじめとした社会的弱者に向かないような「エネルギーの貧困」を引き起こさないための補助の提供といったことを提言した。

また、サミットに先立ち200人弱の日本人のユース向けに行ったアンケートでは、サステナビリティという切り口の中で関心の偏りが目立った。「サステナビリティに関する課題の中で、最も重要だと考える課題は何か」という問いには、回答したユースのうちおよそ8割が気候変動に関連した選択肢を選択し、気候変動や脱炭素に対する関心の高さが伺えた。一方、生物多様性や海洋資源の保全やサステナブルな農業の推進といった課題を最重要と回答した数は数件に留まった。



個人所感

代表 沖山 七海

Track 1 「サステナブルな環境の構築」
(Sustainability and Green Planet)



<個人の所感>

私自身が関心を寄せていた気候変動の緩和および適応を進めるにあたり、同世代の海外のユースはどのようなことを考えているのか、ということを知りたくて本活動への参加を希望した。2か月半にわたる議論や交渉を経て、サステナビリティという切り口で社会を見ると気候変動だけではなく、私たちの生活をいかに人間以外の他者と良いバランスで営むかというこれまで感覚として持つことができなかった問題意識を他国の事例を通じて手触り感を持って学ぶことができ非常に得るものが多い活動だった。

また、本活動では中身についての学びだけでなく大変貴重なネットワーキングもすることができ、活動全体を通じて得られた財産を今後の社会人生活の糧にし、日本の持続可能な経済発展に貢献できるよう精進していきたいと考えている。



個人所感

代表 近藤 英里奈

Track 3 「強靱な民主主義」 (Resilience of Democracy)



<議論所感>

非民主主義国家が民主主義国家よりも多いこと、権威主義的ポピュリズムの台頭が目立つことなどから民主主義のあり方そのものが問われている今、よりよく市民の意見を反映する新たな仕組みが必要であるという課題意識をもって議論に参加しました。

事前に行った日本の若者の意識調査では、政治への関心度や選挙率の低さを問題視し、若者の教育の改革や政策立案プロセスの透明化・評価・監視を求めていることが明らかになりました。また、Youth Dialogue Discussionでは情報格差を含む様々な格差の問題を解決するには包括的なアプローチが欠かせないことが明確になりました。そこで日本の代表として、政府や公共団体が積極的に市民の意見を聞きに行くこと、政治参加の土台となる教育を変革・強化すること、デジタル化の流れをよりよい政策プロセスに組み込むことを念頭に置き議論を進めていきました。

多数決の原理と少数派の権利の擁護を同時に達成するために、何に優先して取り組むべきなのか各国異なる意見を持っていましたが、政策立案段階から実行、結果までのすべての政策プロセスにおいて市民が参加できる機会が必要であることに関して一致していました。例えば、デジタル時代において、政府の活動に市民がよりアクセスできるよう情報の開示と保護を世界基準を作ることの重要性をコミュニケーションに反映しました。また、選挙サイクルによって短期的な視点になりがちな政策立案を、結果重視で長期的な視点を反映したものにできるように、政策評価をできる仕組みづくりを重視し、政府と市民の対等な関係で政策立案にかかわれるようにすることの重要性を反映しました。

<個人所感>

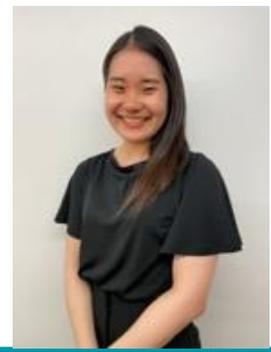
各国の若者代表と今後の社会について、民主主義の根幹は何かというところから実際にそれを実行するにはどのような変革が必要なのかというところまで話すことができた貴重な機会でした。また、国だけでなく個人・企業が世界に影響力を持つような時代に民主主義を中心とした社会システムはどのように変化していくべきなのか、様々な社会問題の解決が必要とされている中で市民の政治参加に関して全体的に考えることができとても興味深かった。



個人所感

代表 近藤 英里奈

Track 3 「強靱な民主主義」
(Resilience of Democracy)



<個人所感>

各国の若者代表と今後の社会について、民主主義の根幹は何かというところから実際にそれを実行するにはどのような変革が必要なのかというところまで話すことができた貴重な機会でした。また、国だけでなく個人・企業が世界に影響力を持つような時代に民主主義を中心とした社会システムはどのように変化していくべきなのか、様々な社会問題の解決が必要とされている中で市民の政治参加に関して全体的に考えることができとても興味深かった。



個人所感

代表 サーカ一壽梨

Track 4 「健康と連帯」 (Global Health and Solidarity)

Track 5 「若者の平和と安全」 (Youth Peace and Security)

<議論所感>

トラック4では、G7加盟各国およびパートナー国から参加したユースが、議論する中で優先的に取り組むべき課題として上がったテーマを選択し、各々の国での現状やアンケート実施国では得られた結果を踏まえて、若者としての意見及び実用性を考慮し中身の策定に取り組んだ。

本年のY7の「健康と連帯」 (Global Health and Solidarity) では、下記の3つを主なテーマ (サブトラック) として扱った。

①食の安全 (Food Security)

→ 現在の世界情勢やパンデミックにおける食料不安定の解消、「ワンヘルス」アプローチ等

②女性の健康 (Women's Health)

→ 女性への暴力の防止政策・フローの整え等

③グローバルパートナーシップ (Global Partnerships)

→ パンデミック対策など

そして、上記全てサブトラックに共通したテーマとしてメンタルヘルスに注目した。

トラック5は今年のウクライナ情勢を踏まえて追加されたトラックで、「若者の平和と安全」 (Youth Peace and Security) における平和プロセスへの若者の参加及び参加における制度化や、若者組織との強力なパートナーシップ構築から、彼らの保護や意義ある (再) 統合に至るまで、YPSの制度化のための具体的な行動が必要であることを強調した。また、主に2022年のウクライナ情勢やその他の紛争に注目し、暴力や害から若者を守るための内容も追加された。まだまだ光を浴びていないこのYPSの分野で、各国のユース世代代表が必要だと感じている政策提言をまとめ、声を届けるために行動することは若者の参加の第一歩となっていて、危機感を感じる良いきっかけとなったと感じている。



個人所感

代表 サークー壽梨

Track 4 「健康と連帯」 (Global Health and Solidarity)

Track 5 「若者の平和と安全」 (Youth Peace and Security)

<個人所感>

ユース世代の様々な国の代表と議論を重ね政策提言をまとめる中で、交渉のいろはから議論内に出てきた考え方、ネットワーキングの場での会話まで、全てが勉強ばかりだった。

「健康と連帯」及び「若者の平和と安全」はともに、昔から長らく議論され続けていた内容ではあるが、昨今の環境や情勢においてその重要性及び行動変化の必要性が再認識された分野であると考えている。そんな2つの分野において各国のユース世代代表と意見交換ができたことは貴重な機会だと考えている。議論の中では改めて各国の文化やフェーズ、根本的な考え方の違いを肌で感じ、そしてそれらに伴ったそれぞれ違ったニーズ及び対処法の必要性を認識し、難しさを感じた。一方で、G7の国々の団結力及び方向性の一致の重要性も感じた。

また、細かい部分ではあるが、YPSは2022年の世界情勢を踏まえた上で追加されたトラックであった。そのYPSの政策提言作成においては日本としての立場を踏まえた上で、立場をぶらさずに最後の最後まで各国が議論を重ねた結果、オブザーバーを含めたすべての参加国が合意の上で最終的にまとめられたことがとても嬉しかった。

この経験及び得た知的財産を今後の人生に生かし、今後より深く健康と連帯（特に日本におけるメンタルヘルス教育）について考え、今回のような活動を通して発展に貢献していきたいと考えている。



Y20 Indonesia



概要



正式名称 : Y20 Indonesia 2022

主催 : Indonesian Youth Diplomacy

期間 : 2022年7月18日（月）～7月23日（土）

開催地 : Jakarta, Bandung

参加者 : 18歳から30歳の学生、社会人からなるG20メンバー国(※)の代表団80名、及び招待国・国際機関のオブザーバー

※ 日本、イタリア、カナダ、フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、欧州連合、中国、ロシア、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、インド、インドネシア、韓国、メキシコ、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ

後援 : インドネシア政府他

公式HP : <https://y20-indonesia.org/>

概要 :

今年度のY20サミットは3年ぶりの対面開催となった。会議期間中は、政策提言に向けた交渉の他に、政府関係者との意見交換、代表団メンバーがモデレーター・パネリストを務めるディスカッションセッションなどを含め多様なプログラムを実施。また、会議に先立ち、OECD、UNICEF等の国際機関とのワークショップ、インドネシア国内4都市でのプレサミット、各トラックでの事前交渉が実施された。合意した政策提言書を元に、代表団は各国政府との交流やアドボカシー活動など、代表団としての使命を継続している。



日本代表団



Y20日本代表団 (左から佐川, 中野, 浅野, 土井)

| 氏名 | 役職 | 所属 (2022年9月時点) |
|--------|---|-------------------|
| 浅野 和花奈 | 代表団長 – Digital Transformation track | 外資系IT企業 |
| 中野 裕美子 | 代表 – Youth Employment track | 外資系資産運用会社 |
| 佐川 弘晃 | 代表 – Diversity and Inclusion track | 東京大学 |
| 土井 崇和 | 代表 – Sustainable and Livable Planet track | コンサルティング会社 |



Y20 活動報告 (事前イベント)

Y7/Y20 サミット日本代表団×日本の若者 オンラインディスカッションイベント (5月7日&8日)

Y7/Y20日本代表団がコミュニケ作成に向けて各政策案のブラッシュアップをしている段階において、日本のユースの率直な意見を取り入れるため、合計約50名程度のディスカッションをオンラインにて開催した。社会人、学生など様々なバックグラウンドの方に参加いただき、各テーマに関する背景やリサーチ情報を代表団から共有後、テーマ毎に分かれてディスカッションを行った。実際に社会課題に直面する方や自ら現場でサポートを実践されている方と直接意見交換ができたため、現段階の政策案をさらに洗練していく重要なインプットの機会となった。

若年層の失業・非労働力化 (日本)

G7/G20 Youth Japan

- パンデミック後の日本の失業率は2020年10-12月期で底を打った後、4%前後と緩やかな改善を継続しているが、若年層の失業率は十分に回復せず。2021年4-6月期は18-24歳の層で11.7%。

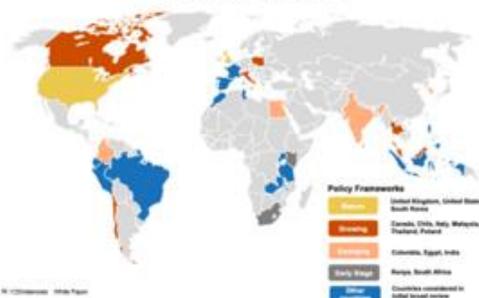


出典：Office for National Statistics, "Labour market overview, UK" June 2021

社会起業家支援政策における各国の取り組みレベル

G7/G20 Youth Japan

Figure B.1.1. Policy Framework for Social Enterprise: Examples from G20 and non-G20 Countries ¹⁰



日本のユースとオンラインディスカッションの様子



Y20 活動報告 (事前イベント)

2カ国間協議 (3月~7月)

サミット本番までの20カ国間トラック別事前会議と並行して、2カ国間での bilateral meeting を行った。本年度のY20代表団は、中国、サウジアラビア等の代表団とのミーティングに加え、南アフリカ、EU、オーストラリア等とトラック毎に個人での1on1を実施した。各人の課題意識やとり得る解決策について、各々の担当トラックを超えた柔軟な議論を行った。課題意識や共通点の共有を通し、20カ国間での事前会議に向けた合意形成の下地を培った。



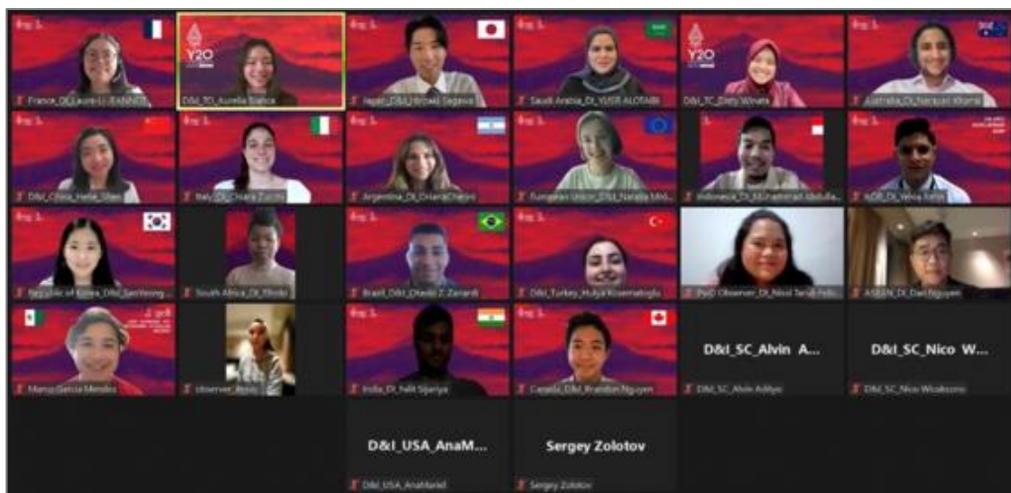
China, Saudi Arabia代表団との2カ国間協議の様子



Y20 活動報告 (事前イベント)

トラック別事前会議&プレサミット (3月~7月)

7月末のサミットの開催に先立ち、各トラックで4ヶ月間にわたるコミュニケの草案作成会議が実施された。3月末に各国代表が提言する施策の方向性を発表するスピーチを行い、その後トラックごとに約5つのワーキンググループごとにコミュニケの草案を作成した。7月時点では大まかなコミュニケの全体像は共有されていた。また、同時に各月にトラックごとにプレサミットがハイブリッド形式で開催された。現地の若者や有識者を混ぜたイベントが開催された。



Diversity & Inclusionトラックのプレサミット、事前会議の様子



Y20 活動報告 (事前イベント)

国際機関とのワークショップ (6月)

Y20の政策提言作成過程におけるインプットを得ること、フィードバックを受けることを目的に、主催団体であるIndonesian Youth Diplomacyが国際機関と企画したワークショップに参加した。本年度はUNICEF, WHO, ILO, OECD等を含む有識者とのオンラインミーティングに参加し、youth empowerment, mental health, digitalといったトピックのもと、意見交換を行った。



代表団に向けた国連xY20、OECDxY20ワークショップ



Y20 活動報告 (Pre summit)

トラック別Pre summit (3月~6月)

サミットの開催に先立ち、Digital Transformation, Diversity and Inclusion, Youth Employment, Sustainable and Livable Planetの各トラックでそれぞれ2-3日のPre summitがインドネシア各地で行われた。それぞれのPre summitにおいては、各トラックにおける議論を更に深めるためのフィールドワークや地元ユースとの議論、有識者とのパネルディスカッションが実施された。オンラインでの交渉に加え、このようなトラック別のオフサイトがあったことは、ともすれば視野狭窄的に進みがちな議論を引き戻し、俯瞰的な視点を取り戻す良い機会となった。



SustainabilityトラックにおけるPre summitの様子



Y20 活動報告 (サミット中の活動)

対面サミット

今回のサミットは新型コロナウイルスの発生以来3年ぶりの対面開催となった。3月から7月にかけてY20代表团によるコミュニケ作成の議論・交渉を進め、7月17-24日に対面にてサミットを開催、最後の交渉と合意を取り付けた。

1日目 (7月17日)

サミット初日はdelegates arrivalに伴う記念撮影、ネットワーキングディナーが開催された。オンラインで交渉を行ってきた代表团、運営メンバー同士の対面交流が行われた。

2日目 (7月18日)

サミット2日目は首都ジャカルタにて、インドネシア国会議事堂でのオープニングセレモニー、文化パフォーマンスとトークショーを含むディナーが開催された。

3日目 (7月19日)

サミット3日目はジャカルタのシティツアーが行われた。船上での歌のショー、宗教施設訪問を通し、代表团同士の交流が深まった。



(1日目) 到着後のディナーと記念撮影



(2日目) 国会議事堂でのセレモニー



(3日目) 首都ジャカルタでのシティツアー



Y20 活動報告 (サミット中の活動)

4日目 (7月20日)

午前中にジャカルタからバンドンへ移動したのち、午後からトラックごとに議論が行われた。どのトラックも議論が白熱し、深夜まで議論が行われた。



(4日目) Digital Transformationトラック

5日目 (7月21日)

各トラックのコミュニケ提出締め切りが午後2時に設定されていたため、早朝から議論が行われた。午後にはPreambleの議論が行われ、ロシアのウクライナ侵略への言及について議論が紛糾した。夜にはバンドン市長とのディナーが行われた。



(5日目) Preambleに関する会議

6日目 (7月22日)

1955年にアジア・アフリカ会議が開催された議場にて、コミュニケの最終調整・採択が行われた。その後は、記念撮影などを行ったのち、クロージングセレモニーが行われた。



(6日目) コミュニケの採択



Y20 活動報告 (サミット中の活動)

Organizers' Roundtable

1日目 (7月20日)

20の国のサミット運営事務局が一同にインドネシアに集い（日本、韓国、中国、インド、オーストラリア、サウジアラビアが対面で参加）インドネシア事務局IYDを中心として、これまでのサミットの開催を経験する中で培った知見の共有と、来年度のサミットに向けた横の連携の構築を行った。

2日目 (7月21日)

5日目は、先日同様の議論に重ね、今回できた横のつながりをどう維持していくことができるか、ということを中心に議論した。これまで重要視されてこなかった事務局のつながりを強めていくことで、今後はさらに代表団及び社会全体にとって実り多いサミットの開催を目指していく。



Y20サミット運営事務局のラウンドテーブル



サミット渉外に関する知見共有



各国Y20運営事務局による集合写真



個人所感

(Y20 浅野 Digital Transformation)



デジタルトランスフォーメーションのトラックでは、ガバナンスと経済促進の二つの側面から5つのワーキンググループを形成し議論を行いました。COVID-19からの回復、グローバル化・デジタル化の渦の中、国家の経済水準や社会体制の違いを超える共通普遍的なゴールとそこへ向かう道筋を模索しました。

- (1) DIGITAL INFRASTRUCTURE FOR MEANINGFUL CONNECTIVITY
- (2) DIGITAL AND FINANCIAL LITERACY
- (3) AN INCLUSIVE, CROSS-JURISDICTIONAL 21 G20 STRATEGY ON DIGITAL-BY-DESIGN GOVERNMENT
- (4) DIGITAL GOVERNANCE
- (5) EMERGING FINANCIAL TECHNOLOGIES

G20各国いずれにおいても、格差是正・経済振興のドライバーであるデジタルの重要性は疑いの余地がありません。またグローバル化・デジタル化、加え感染症流行に伴う経済格差、情報格差の拡大に対する人権の課題意識は、日本の若者や各国代表団の間で共有されました。一方で過去の議論の成果を超えるdistinctiveさ、actionableさを追求すると、議論の具体化の過程で各国の実情や優先事項の違いが浮き彫りになりました。これはことデジタル法規制整備やインフラ・デバイス普及の状況、デジタルリテラシー向上に際する教育システムの分野において顕著でした。丹念な交渉の中でギリギリの折衷点を見出し、最終的にはワーディングの調整により各国の実情を踏まえた解釈の余地を残すことで交渉は合意に至り、大変嬉しく思います。同時にこの経験は、外交の舞台での折衝と各国の自国政策展開・推進力への繋がりにおける、自身の新たな好奇心を育むきっかけとなりました。可能性に満ちたデジタルというトピックをG20各国の同世代プロフェッショナルや日本の若者たちと共に多角的な視点から再考できたこと、眼前のドラスティックな変革やリスクの先に願う未来を共有できたことは、非常にかげがえのない経験です。国際社会とそこに生きる人々の幸福への寄与を目指し、自身もさらに研鑽を積んでいくための原動力となっています。貴重なご意見を賜った日本の同世代の方々、有識者の皆様、共に駆け抜けた代表団、このような機会を下さった運営委員会、ご支援を頂いた皆様お一人お一人に、心よりの御礼を申し上げます。



個人所感

(Y20 中野 Youth Employment)

Youth Employment のトラックではCOVID-19パンデミックによって世界中のスキルに乏しい脆弱な若者たちが大きくダメージを受けた事実を踏まえ、経済回復に向けた短期的な支援だけでなく中長期的な目線を加えた誰も取り残さない政策立案を目指して協議を進めました。若者の労働市場環境は国・地域により大きく異なるため、議論の前に各代表団の課題認識を共有し、政策立案後は政策案の目標レベルが各国にとって適当であるかを十分に吟味していく必要がありました。政策案作成・検討段階においては、以下6つのワーキンググループに分かれて議論が行われましたが、個人的には社会的セーフティネットカバレッジと社会的起業家エコシステム構築の提言執筆に貢献しました。

1. Social safety net coverage
2. Skills development
3. School to work transition
4. Social entrepreneurship ecosystem
5. Financing and incentives
6. Fair and Sustainable Employment

特に社会的セーフティネットカバレッジにおける若者への雇用支援や公的サービスの拡充案においては、高齢化率が世界最速である日本が直面する8050問題などを例に挙げ、就学中や訓練中の脆弱な若者に対して教育のみならず社会面・健康面でも支援を行う政策案を立案し、共同宣言に反映できたことは嬉しく思います。

Y20の共同宣言はG20の首脳陣に向けた政策提言書ではありますが、若年雇用問題はG20以外の国々においても深刻な課題であり、パンデミックやウクライナ戦争によって状況は悪化傾向にあります。そのため、今後はG20協議への反映は勿論、この共同宣言がより多くのステークホルダーへ周知できるようなアドボカシー活動についても活発に行うべきだと考えます。今まさにパラダイムシフトが起きている2022年において、未来を担う日本の若者の声を届けるべく、若年雇用の課題に向き合い、代表団として活動する機会をいただき感謝申し上げます。本体験を糧に今後とも日本社会の課題解決の一助となれるよう精進したいと思います。



個人所感

(Y20 佐川 Diversity & Inclusion)



Y20サミット時までの目標として、「日本の若者という視点での政策提言を、他国の代表団の理解を得ながら、確実にコミュニケに入れ込むこと」を設定していた。

まずは、テーマとして設定されていた教育とコンテンツ経済に関連して、どのような政策を提言するかを検討した。Y20というフォーラムで日本の代表団としてすべき提言は、第一に若者の視点であること、第二に日本の国益にかなうこと、第三にG20レベルでの国際協力に値する提言であることの3つの要件があると考えた。また、20カ国での議論となるため、議論に埋もれないように、あらかじめ提言内容は数個に絞っておく必要があった。

その上で、関連省庁の若手の方へのヒアリング、関係ステークホルダーとして働く若者たちとのディスカッション、ユースイベントでの議論を通して、提言内容を「教育のデジタル化に関する国際的なナレッジシェアリング」「海賊版オンラインコンテンツの国際的な規制強化」という二つのテーマに絞ることとした。

次に、オンラインでの事前会合や本会合で各国の代表からの理解を得ることが必要だった。バイでの協議や、サミット中のイベント中での雑談などで各国と信頼関係を築きながら、地道に理解を得ていくことが必要だった。結果、それぞれのテーマに関して、支持を得た状態でコミュニケの文書に入れ込むことができた。最低限の目標は達成できた点については嬉しく思う。

一方で、反省点は残る。結果的に総花的なコミュニケになってしまった点は否めなく、議論のファシリテートや組み立て方のレベルから積極的に発言できればより良いコミュニケを作れたかと思う。この反省を糧にして、自らの能力をより伸ばしていきたいと強く感じる。

このような政策提言に関連すること以外についても、さまざまな人との出会い、またインドネシアという国・文化に触れる機会など、大変貴重な経験をすることができた。

末筆になってしまうものの、このようなサミットの間を提供してくださったインドネシア政府・サミット実行委員会、代表団に選考してくださったG7/G20 Youth Japanの皆さま、共にコミュニケ作成に携わってくださった皆さま、共に渡航した代表団の御三方に心よりお礼を申し上げたい。



個人所感

(Y20 土井 Sustainable and Livable Planet)



昨年のCOP26 Glasgowを踏まえ、Sustainable and Livable Planetトラックは気候変動のみならず、地球の環境保全の観点から低減ができるようなコミュニケを作成することに腐心した。故に、気候変動のみならず、徐々に議論が進みつつある生物多様性のトピックや、共通財としての地球の観点をカバーした。トラックにおいては、以下の6つのサブトピックに別れて協議が行われ、政策提言文章が作成された。個人としては（1）PROTECTING GLOBAL COMMONS、（6）MOBILIZING SUSTAINABLE FINANCEの提言執筆に対し、特に貢献した。

- （1）PROTECTING GLOBAL COMMONS
- （2）TRANSFORMING FOOD SYSTEMS
- （3）ENABLING SUSTAINABLE PRODUCTION AND CONSUMPTION SYSTEMS
- （4）ACCELERATING THE ENERGY TRANSITION
- （5）STRENGTHENING THE RESILIENCE OF THE BUILT ENVIRONMENT
- （6）MOBILIZING SUSTAINABLE FINANCE

本トラックにおいては、気候変動に対する強い危機感を各代表が共有しており、PRIやWEFなど実際に実務の場で気候変動に関する仕事をしている人が多く、多くの面で刺激を受けた。各国の事情がある中で、必ずしも脱炭素化を推し進めるスタンスでない国々もあわせて、「ユース」という名のもとに野心的なコミュニケを採択することができたことを誇りに思う。

一方で、足元でウクライナ危機の影響により、欧州において家計での燃料負担が年間100万円を超える等、急速な脱炭素化の推進は必ずしも正の影響のみをもたらすわけではないことは我々が意識しておくべきことであろうし、他エンゲージメントグループとの関わりの中でバランスを取っていくべき点であろう。会議全体を通して、インドネシアのG20/Y20への熱量の高さや、インドネシアの若者の政策議論への活発な参加が印象に残った。末筆にはなるがこのような機会を場を提供頂いた皆様に感謝を申し上げたい。



2022年度 Y7/Y20サミット報告会



Y7/Y20サミット報告会 概要

主催：G7/G20 Youth Japan

日時：2022年10月22日13:00-16:00

開催地：科学技術館（東京）、Zoom（オンライン）

参加者：学生、若手社会人など約40名

会場参加者



オンライン参加者



Y7/Y20サミット報告会

Y7/Y20サミット概要報告

Y7サミット日本代表団長の藤井とY20サミット日本代表団長の浅野が各サミットの概要を報告し、サミットを通じて作成したコミュニケ（政策提言書）の要点を紹介した。

パネルディスカッション

Y7/Y20サミットの日本代表によるパネルディスカッションを実施。日本代表を志望した理由や、サミット中大変だったことなどを紹介した。参加者から事前にアンケートで募った質問や、会場からの質問にも回答した。

グループワーク

各代表ごとにグループに分かれ、グループワークを実施した。各代表がサミットで提言した政策の詳細について発表し、今後の課題についてディスカッションを行なった。参加者の属性も学生から若手社会人と多様であり、多角的な視点からの議論が行われた。



Y20サミット日本代表団長による報告



日本代表らによるパネルディスカッション



グループワーク



Conclusion

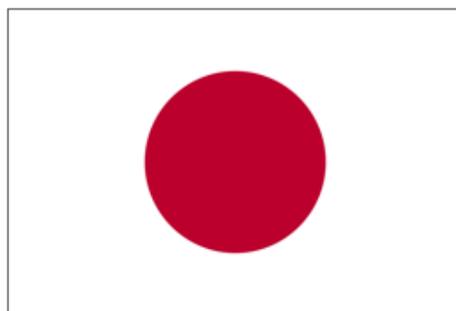
今後の活動について

Y7 Summit 2023

場所：日本

時期：2022年4月を予定

代表団：2022年12月に選抜予定



Y20 Summit 2023

場所：インド

時期：2022年6月後半を予定

代表団：2022年12月に選抜予定



協賛

協賛

一般財団法人 MRAハウス
公益財団法人 双日国際交流財団

